



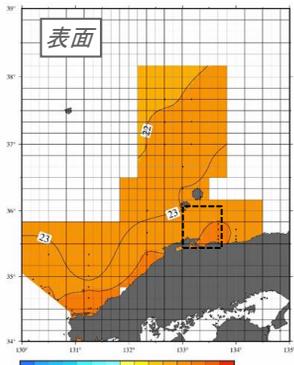
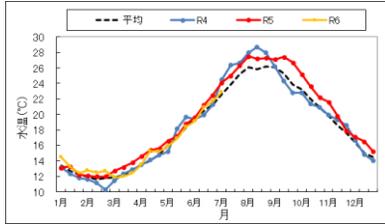
鳥取沿岸の水温

鳥取県栽培漁業センター 沈砂槽

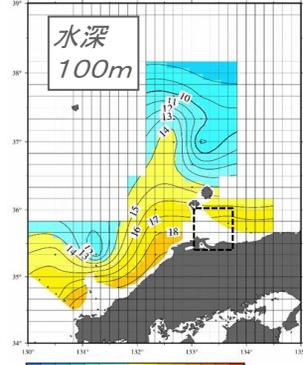
(電話:0858-34-3321)

7月中旬 22.9℃

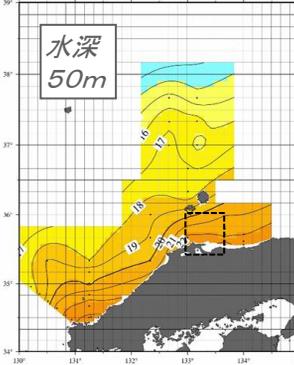
平年より 0.5℃高め



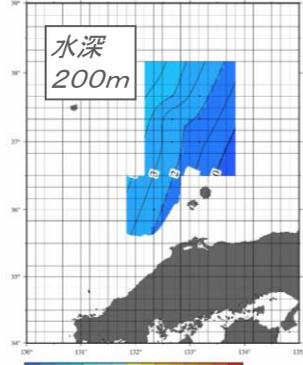
隠岐海峡と鳥取県沖(点線範囲内)の平均水温は23.3℃を示しています。
【前年差:+0.06℃、平年(直近30年)差:+0.9℃】



平均水温は17.7℃を示しています。
【前年差:0.46℃、平年(直近30年)差:2.36℃】



平均水温は20.0℃を示しています。
【前年差:-1.03℃、平年(直近30年)差:+2.31℃】



平均水温は20.0℃を示しています。
【前年差:-1.03℃、平年(直近30年)差:+2.31℃】

水産試験場

2024年は大型クラゲの大量来遊が予測されています

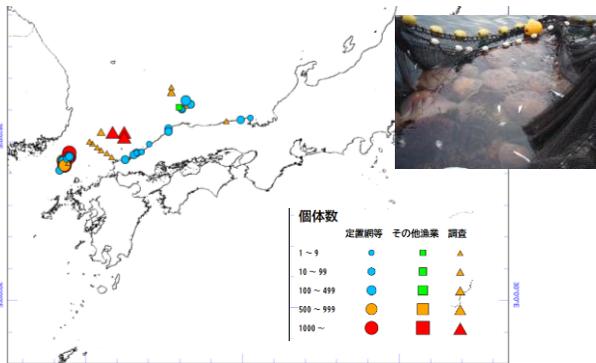
JAFIC(漁業情報サービスセンター)からの情報によると、7月上旬から対馬で大型クラゲ(エチゼンクラゲ)の大量出現が続いており、2024年は史上最大の出現であった2009年に匹敵する可能性が予測されています。

7月19日時点で、大型クラゲの群の先端は、京都府に到達しており、鳥根島の隠岐諸島でも定置網に多く入網がみられるようになりました。

水産試験場では、賀露と境港の小型底びき網漁業者に入網状況調査を依頼しています。この調査による県内の大型クラゲの来遊情報は、下記の水産試験場ホームページの「大型クラゲ情報」に随時アップしていきますので、ご確認ください。JAFICの大型クラゲ情報も、このページにURLリンクが貼ってありますので併せて参照してください。

[大型クラゲ情報URL]

<https://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=73054#itemid403992>



出典:2024年7月19日JAFICホームページを改変
(大型クラゲ出現情報:分布)

令和6年4月から下記2社の広告を1年間掲載することになりました。

いつの時代も、技術とサービスをもって水産業・漁業の皆様を支援してまいります

西日本ニチモウ株式会社

本社 山口県下関市小月小島2丁目3-17 〒750-1136
電話 083-282-4041(代表) FAX 083-282-0424
境港営業所 鳥取県境港市栄町92番地1 〒684-0006 電話 0859-44-0475 FAX 0859-42-6330

潮に夢を

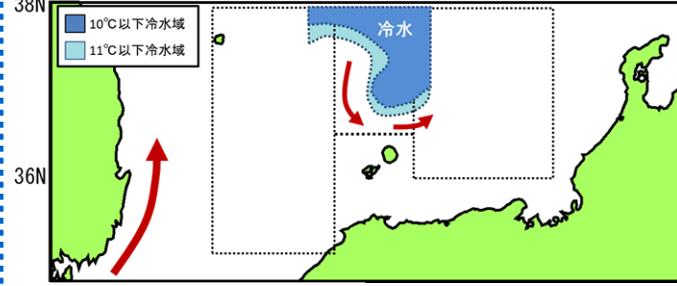
共和水産株式会社

代表取締役 橋津 寛

〒684-0006 鳥取県境港市栄町65番地
TEL:0859-44-7171(代) FAX 0859-42-6530

7月上旬の水塊配置と対馬暖流

鳥根沖冷水 隠岐諸島北方 山陰・若狭沖冷水



鳥根沖冷水域・ 隠岐諸島北方の冷水域	隠岐諸島北方のN36°40'付近に冷水域が認められました。
山陰・若狭沖冷水域	鳥取沖N36°40'以北に冷水域(11℃以下)が認められます。
対馬暖流の流路	主流は朝鮮半島東岸に沿って北方に向かい流れると考えられます。主流の一部は、鳥根沖冷水と隠岐諸島北方冷水に沿い鳥取県沖のN36°40'以北を流れていると考えられます。

漁業調整課

「萌える海藻！鳥取県の豊かな海を育む大作戦」 応援企業認定セレモニーを開催しました



鳥取県、鳥取県漁協、田後漁協、赤碓町漁協、栽培漁業協会では、アラメ藻場造成やウニ類の駆除を実施し、藻場を守っています。

この度、「鳥取県の豊かな海を育む協議会」を立ち上げ、継続的な藻場造成、ウニ駆除等の取り組みが行えるよう、本県のアラメ藻場から創出されたCO₂吸収量をクレジット化し、藻場保全の取り組みに賛同した企業にクレジットを購入して頂く活動として、「萌える海藻！鳥取県の豊かな海を育む大作戦」を開始しました。(クレジット化:売買できる形にすること)

県では、クレジットを購入いただいた企業を「萌える海藻！鳥取県の豊かな海を育む大作戦応援企業」に認定することとし、令和6年7月2日に、令和5年度のクレジット購入者を応援企業に認定し、平井知事より認定証を授与しました。

今後も関係各者とより一層協力し、藻場造成を進めてまいりますのでご期待下さい！

令和5年度クレジット購入者

(順不同)

- ・ 司ヶ浜水産株式会社
- ・ 三光株式会社
- ・ やまごう建設株式会社
- ・ 株式会社タシマホールディング
- ・ 株式会社井木組
- ・ 美保テクノス株式会社
- ・ 王子製紙株式会社 米子工場

【御来屋漁港アラメ藻場の現地視察】
「ブルークレジット」®認定記念パネルとともに



アラメをふやしましょう！

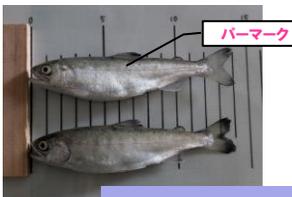
栽培漁業センター

境港サーモンの種苗が順調に成長しています

境港サーモン(ギンザケ)の稚魚は、内水面養殖場の清涼な水で育てられます。写真は、稚魚生産場のひとつ、倉吉市関金町の養魚場です。昨年末に孵化した稚魚は5月には体重5gでしたが、現在約25gにも成長しました。これから、12月に沖出しするまで育成されます。

この時期、写真のように、サケ科魚類特有のバーマーク(楕円形の横縞模様)が薄くなり、体表全体が銀色になり、ギンザケらしくなってきます。

ギンザケは冷たい水を好むため、年々暑くなる気候に養殖業者の苦勞も絶えません。栽培漁業センターでは、ワクチンの接種の指導に続き、魚病検査などを行い、稚魚が無事に育つよう協力しています。



バーマーク

7月中旬に採取した種苗



300 t程の大型汚水槽で育てられ、エキサイティングな景観が見られる